

# 東日本大震災復興支援活動報告書

## 1. 派遣職員

所属部課 : 企画振興部 政策調整課 主任 栗野雅文  
企画振興部 地域整備室 主任 大林 恒

派遣先自治体 : 岩手県宮古市

派遣期間 : 平成23年5月21日 ~ 平成23年5月30日

主な支援用務 : 避難所支援業務

## 2. 支援活動状況

私たちは自治労「災害復興支援」第7グループの一員として、岩手県宮古市の宮古第二中学校避難所で24時間体制、2交代による支援業務に就きました。

体育館が避難所となっており56名(震災当初は約200名)の方が避難され、宮古市の職員1名、自治労派遣3名、ボランティア数名で物資の受け入れ、発注・管理や避難所内の衛生管理などを行ないました。毎日の食事は自衛隊による炊き出しにより提供がされ、生活に関連する物資は一通り揃っており、震災当初と比較すると、環境が改善されていると伺いましたが、避難されている方々から、震災当日の状況や自身の被災状況、現在の心境などを聞かせていただき、被災から2ヵ月以上が経過しても続く避難生活や今後の生活不安などから大きなストレスや疲労、睡眠不足に耐え、被災地職員に言えない不満・不安などを私達に訴えることも多く、被災された方への継続した心のケアの必要性を実感しました。

被災地では多くの方々の支援・協力のもとで復興・復旧にむけて懸命な作業おこなわれ、地域によりスピードの違いを感じるものの確実に復旧は進んでいますが、1日も早い復興のため支援の形式に囚われることなく継続した支援が求められていることを強く感じました。

## 3. 支援活動状況写真

別紙のとおり

# 自治労「災害復興支援」活動報告写真(1/2)

◎宮古第2中学校 避難所の様子



◎自衛隊による炊出しの搬入



◎種類ごとに袋に梱包されて搬入される食事



◎この日のメニューはトマト・スパゲッティとスープ、ヨーグルト



◎避難所に備えられている食品や非常用水



◎全国から寄せられた支援物資



◎住宅などの取り壊しが続く宮古市鎌ヶ崎地区



◎津波到達の3時15分で止まった時計と破壊された室内



# 自治労「災害復興支援」活動報告写真(2/2)

|   |  |
|---|--|
| <p>◎宮古市の漁港地区に運ばれた瓦礫による山</p>   | <p>◎津波に備えて歩道に設けられた誘導標識</p>   |
|    |    |
| <p>◎宮古市田老地区(旧田老町)の高さ10mの防潮堤</p>   | <p>◎防潮堤を超えて甚大な被害となった市街地</p>  |
|   |   |
| <p>◎防潮堤を超えて甚大な被害となった市街地</p>   | <p>◎津波により建物は流出し、残された銀行の金庫室</p>   |
|  |  |
| <p>◎仮設住宅の建設</p>   | <p>◎5月26日より再開された漁港での水揚げ</p>  |
|  |  |